

“優しく、強く、愛しい人”の育成

～ R6 全国学力・学習状況調査の結果から ～

本年4月18日に6年生が実施した「全国学力・学習状況調査」の結果が発表され、全国や静岡県の結果が新聞等に掲載されました。焼津市の調査結果の概要をお知らせします。



■■ 国語・算数の学習について ■■

【国語】 全国と比べて、「書くこと」、「話すこと・聞くこと」がよくできていました！

情報の扱い方に関する力が育まれています

国語では、今の時代にとっても大切な「情報を扱うための知識・技能」を身に付ける学習をしています。複数の語句を丸や四角で囲んだり、線でつないだりして、語句と語句の関係を表すことで、自分の考えを「より明確にできる」「まとめることができる」ということを理解することが大切です。これに関連した問題では、焼津市の6年生の正答率は高い結果でした。このことから、毎日の授業で「線で結ぶ」「似ている事柄をまとめる」「よい点と問題点を分けるために丸で囲む」など、様々な図示の方法に取り組んできたことで、子供が考えを明確にしたり、まとめたりすることができるようになり、その有効性を理解したことが分かります。

また、感じたことや考えたことなどを分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にする問題も高い正答率でした。物事を説明したり、自分の意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書くときに、情報を整理することは、とても大切なことです。

今後、情報を整理することと「書くこと」や「話すこと」を関連させながら、国語の力をさらに伸ばしていきたいと思います。

また、「国語の勉強は大切だと思いますか」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という問いに対して、多くの児童が肯定的な回答をしています。国語に対して前向きに学ぶ子供たちの気持ちを大切にし、豊かな想像力と確かな学力を身に付けられる学習を実践していきます。

【算数】 「算数が好き」+5.5P！ 基礎的・基本的な力が育まれています

「算数の勉強が好きですか」という問いに対し、前向きに回答した子供が、全国比+5.5Pととても高い割合でした。この子供たちの算数の学びに向かう前向きな思いをより一層高められるよう、興味・関心がもてるような学習内容や日常生活の場面とのつながりを意識した問題を取りあげていくなど、指導の工夫を継続していきます。

「道のりと速さと時間の問題」では、「道のり」と「時間」の関係から「速さ」を導き出す問題がよくできていました。これは、多くの子供が3つの関係式を理解し、計算によって求めることができていたからです。また、「データの活用」の問題では、円グラフから割合を読み取ったり、必要なデータを選んで処理したりする問題が、よくできていました。

これらのことから、基本的な考え方や計算・処理の仕方などが定着し、基礎的・基本的な力が育まれていることが分かります。

一方で、速さの意味を問われたり、数値をもとに日常生活における状況を判断することが求められたりするような問題では、課題が見られました。また、「記述式」の問題では、結論は間違っていないものの、説明が不十分な点が課題としてみえてきました。

子供の「間違いや疑問」を大切にしながら、これまでの授業を継続しながら、今後の授業では、問題文や解決している途中で表れた数値が表す意味を考える場面や、データを根拠にして考え判断する場面を設定するなど、日常生活とのつながりを意識した授業を実践していきます。また、自分の考えを整理して理由や根拠を書いたり、友達に考えを説明したりすることを通して、子供たちがお互いに表現を高め合えるような活動を取り入れていきます。



※お子さんに学力調査問題等を配付しました。
ご確認ください。

□□ 家庭・学校・地域…安定した生活の様子がうかがえます □□

1 家庭生活

「朝食を毎日食べている」は 95.1%、「毎日同じくらいの時間に起きる」も 92.2%で、焼津市の子供たちは、基本的な生活習慣が身に付いていることが分かります。

普段（月～金）の過ごし方で、「コンピュータゲームや携帯型などを含むテレビゲームをする時間」は 3 時間以上が 33.2%、「SNS や動画視聴をする時間」は 3 時間以上が 21.8%と、長時間利用している子供が多い様子がうかがえます。

一方で、「スマートフォンやコンピュータ等の使い方について、家の人と約束したことを守っている」と回答した子供は 72.0%と、決めたことを守って使おうとしている子供も多くいます。今後も、ご家庭でこれらの使い方について話題にしてください。自分で使い方を考え、自分で決めて、適切に行動できる子供を育てていきましょう。

2 学校生活・授業

「学校に行くのが楽しい」87.1%、「友達関係に満足している」91.2%と、安定した気持ちで学校生活を送っている子供たちが多い様子がうかがえます。また、「困りごとや不安がある時、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」も全国比+5.7P でした。今後も、教職員が子供一人一人を大切に声かけや支援に努めてまいります。

授業での焼津市の特徴的な表れとしては、「算数の勉強が好き」が全国比+5.5P、「算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている」が+4.9P と、多くの子供が算数への興味・関心が高く、楽しく学習していることが分かります。

また、「PC・タブレットなどの ICT 機器をほぼ毎日使用した」が、全国の 25.3%に対し、焼津市は 50.0%とほぼ 2 倍でした。また、「週 3 回以上」を加えると 83.9%と非常に高い割合で、焼津市の学校の授業では ICT 機器を積極的に活用していることが分かります。

3 社会（地域）生活

「地域や社会をよくするために何かしてみたい」が 85.8%と高い割合でした。焼津市の子供たちは地域との結びつきが強いことがわかります。

「人が困っているときは、進んで助けている」が 92.9%、「人の役に立つ人間になりたいと思う」が 96.4%と多くが肯定的に答えており、周りの人と積極的に関わっていこうとする、人が好きな優しい子供たちに育っています。

子供にとって、家庭や学校だけでなく、地域社会の多くの人と交流し様々な考えにふれることは、成長していく上でとても大切なことです。

□■□ 確かな学力を身に付けるために必要なことは・・・ □■□

1 基本的な生活習慣

「朝食を毎日食べる」「毎日同じくらいの時刻に寝る(起きる)」などの基本的な生活習慣が身に付いている子供は、学習内容がきちんと定着している傾向があります。右の表「①朝食を毎日食べる」の質問に「当てはまる」と回答した子供の国語の正答率は 69.7%で、「当てはまらない」の 39.5%と比べて 30.2P も高いことがわかります。算数でも 24.3P の差がありました。

また、「②授業以外の、平日 1 日当たりの勉強時間」では、「30 分以上」と「30 分未満」で、正答率に差が見られました。毎日勉強する習慣があるほうが、学習の定着がよいことがわかります。ただし、単に勉強時間が長いほど正答率が高いという結果ではありませんでした。大切なのは時間の長さよりも、人に言われてではなく、自ら進んで必要な学習に集中して取り組むことです。

2 主体的に学ぶ態度や姿勢

「主体的」とは、自分で何をするのか判断し、自ら取り組む態度や姿勢のことです。主体的に学習に取り組んでいる子供は学習内容が定着しています。

右の表「③授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」について「当てはまる」と答えた子供の正答率は、「当てはまらない」という子供に比べ、国語で 30.8P、算数では 31.4P と大きな差があります。同様に、「④分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫する」についても、国語で 18.4P、算数では 20.9P の差がありました。

受け身の姿勢ではなく、自分から様々なことに興味・関心をもち、自分の学びを広げていける、そんな子供を学校では育てていきます。

3 仲間との対話（協働）

「⑤学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりする」という質問では、国語で 31.5P、算数で 27.0P の差がありました。グラフはありませんが、「友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」も国語 31.4P、算数 27.1P と大きな差でした。

対話を通じて考えを深めたり広げたりすることは、学力の定着だけにとどまらず、予測困難な今後の世の中を生きる子供たちが、多様な他者と協働して問題を解決していく力の育成にもつながります。学校では仲間と一緒に考えたり、活動したりすることで課題の解決に向かう学習活動を大切に授業を行っています。

※ 棒グラフは左から順に以下のとおりです

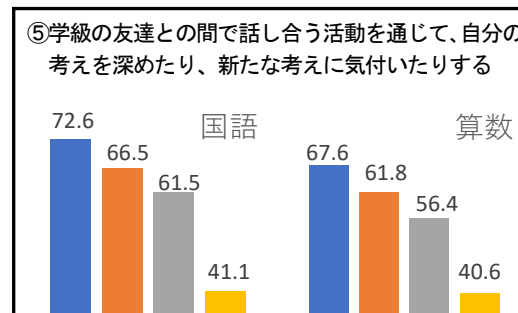
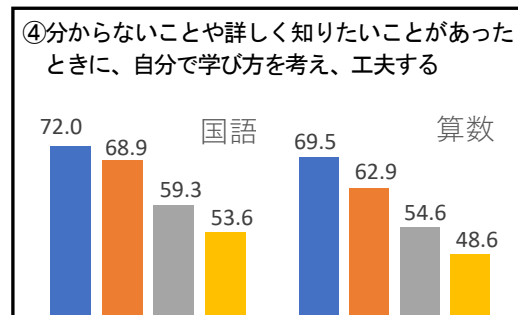
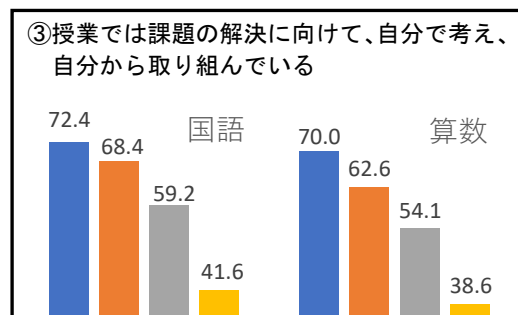
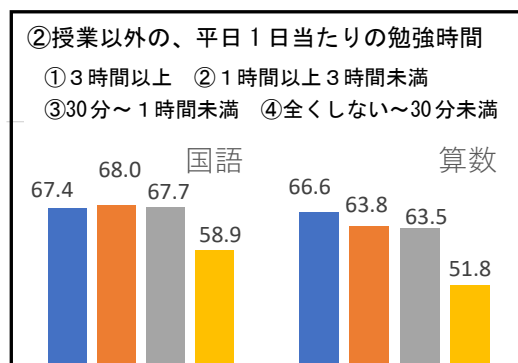
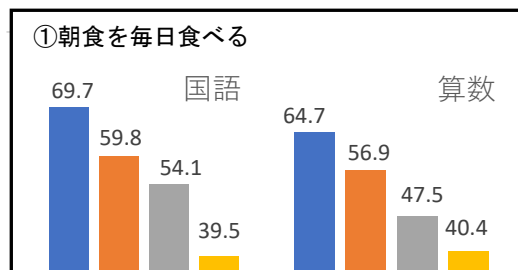
○当てはまる

○どちらかと言えば当てはまる

○どちらかと言えば当てはまらない

○当てはまらない

※ 棒グラフの上の数値は平均正答率です（％）



子供たちを「優しさ」と「強さ」を 兼ね備えた「愛しい」人に

令和3年度に策定された「焼津市教育大綱」では、これからの時代をたくましく、しなやかに生き、自分らしい人生を輝かせていくため、下枠のような「優しさと強さを兼ね備えた愛しい人」へと成長することを目標としています。

- つまずいても、失敗しても、あるいは壁にぶつかっても、負けないで粘り強く立ち向かう「たくましい強さ」をもった人。
- 時代の変化に対応できる柔軟さ、あるいは苦しい体験や辛い思いをしたときに折れることなく、それらをよい経験としてポジティブに受け止めるなどの「柔軟な強さ」をもった人。
- 他者の立場を理解し認め、他者の考えを受け入れられる優しさをもった人。他者との協調や協働を大切にし、和の心をもった人。

子供たち一人一人が「優しく、強く、愛しい人」に育っていくためには、つまずきや失敗の経験がとても大切になります。たとえ乗り越えられなくても、挑戦した経験があってこそ、真の強さや優しさを身に付けることができると思います。

下の表は、教育大綱に関わる質問項目についてまとめたものです。

質 問 事 項	伸び率
① 自分にはよいところがあると思いますか	+7.2
② 人が困っているときは、進んで助けていますか	+3.1
③ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか	+0.5
④ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	+8.8

R 3⇒R 6
の伸び率

この4つの項目について、令和3年度からの伸び率をみると、「① 自分にはよいところがある」は+7.2P、「② 人が困っているときは、進んで助けている」は+3.1P、「③ 人の役に立つ人間になりたいと思う」+0.5P、「④ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」+8.8Pと、全ての項目で伸びています。

これは、各学校で教育大綱の理念を柱に学校教育目標や重点目標を立て、教職員が「子供たちが、自ら考え判断し行動を起こすことを願って、行事の企画や運営を任せたり、声かけをしたりなどしてきていること」が、成果として表れてきているからだと考えられます。なお、本年度の焼津市学校教育の重点は「失敗や間違いを恐れない子、疑問を言える子」です。

◇ かわいい子には旅をさせよ ◇

学校では、「子供の言動を決定づけたり、制限したりする教師からの指示は極力控え、たとえ失敗しても子供が自ら判断し、自ら動き出すように意図的に働きかける指導」を積み重ねるよう努めています。

ご家庭では、お子さんが様々な経験ができるよう、支えてほしいと思います。たとえ、それがお子さんにとって苦勞であっても、手や口を出すことを控え、温かく見守りながら励ましてあげてください。合い言葉は、「**かわいい子には、旅をさせよ**」です。

焼津市教育委員会
教育センターみらい
6 3 1 - 4 8 1 1

